

★過重労働疾患、運輸業深刻

政府は2019年版の「過労死等防止対策白書」を閣議決定した。運輸業が18年度の過労死を含む脳・心臓疾患の認定件数で最多となり、精神疾患も多かった。

過重労働が顕著な業種として新たに建設業とメディア業界を分析。建設業の現場監督に自殺者が多いことが浮かんた。20年東京オリンピック対応で厳しい労働環境が続いている。

白書によると「運輸業、郵便業」の脳・心臓疾患の認定件数がトップの94件、職種別でもトラックやタクシーの運転手など「自動車運転従事者」が最多の85件を占めた。

【脳・心臓疾患の認定件数が多い上位5業種】

業種	件数
運輸業、郵便業	94
宿泊業、飲食サービス業	32
その他の事業	29
製造業	28
卸売業、小売業	24

また精神疾患と認定されたケースについて男女別に原因を分析した。

女性では「セクハラを受けた」が19.7%、パワハラを含む「ひどい嫌がらせ、いじめ、または暴行を受けた」が16.6%、これらを合計すると女性の職場でのハラスメント被害の深刻さが伺える。

男性では「仕事の内容・仕事量の大きな変化を生じさせる出来事があった」が最も多く23.1%、次が「嫌がらせやいじめ」の15.9%だった。

★男性公務員の育休1か月超原則に

政府は国家公務員の男性職員について、原則1か月以上の育休の取得を促す方針。取得をためらわないよう職場ごとに仕事の分担計画を作り、課長補佐以上の人事評価に反映することで実効性を高める方針。

男性公務員の育休取得率は21.6%、一方男性民間の育休取得率は6.2%であるが、国が率先して取得を推進する。

★高齢者の体力向上なお続く

2018年度の体力・運動能力の結果が公表された。高齢者の体力は上向き傾向が続き、60代後半の女性の結果はこれまでの記録を更新し、活力ある高齢者の姿が浮かんた。高齢者について「若いころから運動に親しみ、健康への意識が高い」と分析している。

【70代後半の男女の主な体力テスト結果】

	男性	女性
握力	35.32 ^{kg}	22.62 ^{kg}
開眼片足立ち	58.81秒	57.79秒
6分間歩行	582.44m	540.82m
合計点 (60点満点)	35.51点	35.77点

★「特定技能」認定進まず

「特定技能」は2019年4月に新設され、人手不足が深刻な飲食や介護など14分野を対象に外国人の単純労働を認める在留資格だ。

今までの「技能実習生」は多くは3年で帰国するのに対し、「特定技能」は5年間雇えるため技術やノウハウを伝承しやすい。

しかし「特定技能」導入から10月で半年を迎えたが5年で最大35万人を受け入れる政府試案に対し、現状の認定数はベトナムなどからの400人弱に留まる。

政府は制度導入前から技能実習生の最大の送り出し国のベトナムや中国、タイなど9か国で優先的に2国間の協力覚書を交わしたいが、中国とタイでは難航しているが基本的な合意ができているとのことで今後は認定数が増えるとしている。

日本で働く外国人が年金に加入しても「払い損」となる制度についても是正する方向。



コスモス